慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	寒天資料の研究(野村豊著, 大阪府寒天水産加工業協同組合出版)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1951
Jtitle	史学 Vol.24, No.4 (1951. 4) ,p.135(575)- 137(577)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19510400-0135

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

かり諸傳家本の祖本と見るべきもの。

年代記斷簡（一軸）―柳原家の傳藏本、鎌倉末期前後のもので、年代記としては現存最古の寫本と云われ、續群書類從所收の奈良年代記の前に續くもので、南都の僧侶の手になつたもの。

秋津嶋物語（一册）―桂宮本、鏡類に倣つて問答體に記された神代の歷史物語で江戸初期の寫本であるが現在は圖書文庫寮に唯、一本あるのみ。

椿葉記（一卷本と一軸本）―伏見宮傳藏のもの、第三代貞成親王の自筆で、王子である後花園天皇の御覽に供する爲めに假名文で書かれた伏見宮の家記であり、同親王の日記看聞日記（四十數卷）と共に貴重なもの。

伏見院宸記（八卷）・花園院宸記（四十六卷）何れも宸筆で伏見宮傳藏本、古來有名なもので說明するまでもない。

水左記（二軸）―柳原家・同上（四卷）―伏見宮家・共に傳來のもので、源俊房の日記の原本である。就中四卷の中一卷は今まで全然世に知られなかつたもの。

明治改元文書（四册）―壬生本、明治元年九月八日「自今以後革易舊制、一世一元、以爲永式」の詔書覆奏の原本で、昨今、元號の存廢を論ぜられる時誠に感激無量の史料である。

明神宗贈豐太閤書（一軸）―慶長元年九月三日明使楊方亨が齎したもの、この時の國書は誥命・詔書・勅諭の三通で、これは勅諭であり、「封爾平秀吉、爲日本國王」とある。同文の誥命は石川子爵家にあつたが、今はどうなつているか、秀吉の裂いたと云う國書の二通も無事に今日まで存している譯である。

猶、本書收錄の典籍には谷森本が相當に多い。同本は幕末維新の勤王家として山陵の檢索とその修理に功績あつた谷森善臣翁の遺愛のもので、先年後裔より皇室に獻納されたものである。

以上は本書の大要であるが、解題に努力せられる關係者各位の筆勞に敬意を表すると共にその續刊の早きを希望する。

（二五、五、二九、武田勝藏記）

寒天資料の研究（野村豐著　大阪府寒天水產加工業協同組合出版）

山の奥に產する海の幸と云われる寒天は、萬治年間に伏見の人美濃屋某の偶然の機會によつて出來、その名は隱元禪師がつけたと傳えられ、爾後、攝津國原村の人宮田半平などの研究と更に後人の屢々の改良とによつて遂にわが國水產製品中重要なものとなり、戰前までは中國は勿論、遠く歐米までも多量に輸出されたことは周知である。

寒天の原料天草（石花菜）等はわが海濱または朝鮮より仰ぐが、その製造は意外にも山間僻地の農山兩村で、然も季節的副業的產業として發達して來たもので、その產地は京都大阪兵庫長野山梨

の府縣下である。從來これに關して人文科學方面よりの研究は皆無であつた。

神宮皇學館出身の著者は夙に特殊產業の人文地理學的研究を志し、その研究の一として「寒天の歷史地理學研究」を近く上梓せらることとなつたので、これに先き立つて同書の姉妹篇として昭和二十三年より一年間主として京阪地方の古來寒天製造地を殘すところ無く實地踏査して採集の製造元秘藏の古文書古記錄等三九〇點を整理し「寒天資料の研究」と題し今次業者關係の後援によつて出版された。なお若し大阪市の戰災前にその問屋關係資料を蒐集されていたならば、更に數倍の資料となつたことと思い、深く遺憾とされるところであらう。然し大阪問屋關係の幾分は信州製產地關係の資料と共に既刊の書籍より若干採錄されている。

本書は著者の努力にもかゝわらず古い資料はなく、文化年間より明治三十六年頃までのものであり、製造元八家の秘藏資料を家別に大體年代順に配到しこの八家中一家のみ今日まで祖先創始以來その業を繼承しているが、他は全部維新後漸次に廢業したといふ。然し廢業の諸家がかくも多數に祖先の業績を語る貴重な資料をよく保存されたことには敬謝せざるを得ない。

資料は種々收錄されているが、凡そ規約類、願書建白書類、冥加上納、株仲間組合關係書類、證文類、諸控帳、製造日記、覺書、觸書達類より維新後の組合會社組織に關する書類、製造の亂刺法の特許權無效に關する申請願書とその審決等である。

茲に本書の資料により業者の一例として今日まで繼續の京都府南桑田郡西別院村の黑田家について紹介すれば、同家は天保十一年有栖川宮の御支援を希うてその業を創始し、大阪の同宮家御用所を拜借し、且つその名義で諸國より原草を買上げ、これを國元に送つて製造したもので、丹波國における製造の塙矢である。同十四年に同村內の一家に下焚卽ち下請けを始めさせ、爾後その製品は認められ弘化元年には紀州家の御用達として紀州より原草を引請け、同郡に四家、船井郡に三家を開業させ愈々その業は發展し、更に安政三年には伊豫宇和島藩より同じく原草を引請けて以來、業者は增加したので、これを紀州組・伊豫組に別けて製造せしめた。また慶應元年よりは加州前田家の御用達として領內より原草を引請け益々發展販路を擴張したが、明治維新の變革によつてこれ等名門勢家の特殊な支援は打切りとなり、以後獨自に諸國より原草を入手することとなり、相當な困苦に直面して漸次に同業は廢業することゝなつたのである。これは幕末維新產業史上見逃すべからざるものであらう。

黑田家はよく苦難の經營を切りぬけて、明治十一年には始めて製造に醋を使用することを發明して以來品質を改善し、今日に至る迄屢〻內外の博覽會より賞牌を授與される程となつた。然しその間不振の業者の挽回策として組合の改組や寒天會社の設立等に

奔走し、また製造の亂刺法の特許權取消申請などにも努力し業者の復興と國産の發達に格別の勞功があつたことが推察せられる。

本書は寧ろ寒天研究の史料と云うべきもので、わが國産業史、經濟史を研究される學徒の貴重な史料として江湖にこれを推奨し、且つ著者に敬意を表して前記他の姉妹篇を紹介する日の早からむことを待望するものである。（菊版大二册　九〇〇頁）

（昭和二五、五、八、日本學士院にて武田勝藏記す）

The Politics of Aristotle.

Translated with an Introduction, notes and Appendixes by Sir Ernest Barker.

初版 1946. Oxford.

ヨーロッパの政治思想の古典中アリストテレスの「國家論」程後世に強い影響を與へて來た著作は余に多くない。今日この書に對すると何か不思議な力に惹かれるのを覺ゆるのは筆者のみであらうか。このアリストテレスの「國家論」には B. Jowett の英譯その他があり、殊に Jowett のものは不朽の名譯として廣く我國にも親しまれているが、既に刊行後長年月を經過し、その後の古典學研究の成果を取入れた權威ある新譯の刊行が望まれてゐた折から Sir Ernest Barker の新譯の刊行を見たことは誠に喜ばしきことと言はねばならない。

本譯書は西洋政治思想史の權威であり又ギリシヤ語にも造詣の深い Ernest Barker が專門的智識に比載的缺ける所ある一般讀者に正しい姿でのアリストテレスを紹介することを目的としたもので、最初の計畫では本文のみの簡略な譯を目指したがその不充分なるを悟り現在の如き極めて說明的な譯書となつたと言つてゐる。本書は底本として Newman 校訂本を使用し、Susemail-Immisch 版を參照して飜譯せられてゐる。彼の譯文に於てはテクストにある本文と、アリストテレス特有の簡單な表現から來る誤解を防止するために譯者の附した敷衍の文とは後者を括弧（カッコ）に容れることによつて區別し、一方に於て本文のありのままの形の保存に努めると共に、出來得る限り內容を一般讀者の理解し易きものにすることに努めてゐる。

しかし本書の著しい特徵はむしろ卷頭七十頁余に亙る序說、豐富な註、及び卷末の附錄にあると思はれる。此等は要するにアリストテレスの「國家論」を現代的感覺を以て誤つて理解するのを避け、アリストテレスとこの「國家論」とを結付け著者の意圖した內容と考へられるものを一般讀者になるべく容易に理解させようとして附されたものなのである。

卽ち序說に於てはこの書の歷史的思想的背景、特にギリシヤ固有の都市國家と獨特の國家觀に對して要領の良い說明が加えられ